令和７年度　江戸川区立北小岩小学校　学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	○心豊かでやさしい子 ○よく考え表現する子 ○体をきたえ元気な子		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	○「凛と輝く、北小」を経営の基本とし、「共に育み、共に育つ、開かれた学校」を目指す。 ○「礼儀正しい子」「しなやかで心のある子」「すすんで学ぶ子」の育成を目指す。 ○「子供たちとともに学び、よき社会人であろう」を目標に健康維持増進、服務の厳正、信頼関係と協働体制、地域の一員としての行動、学ぶことへの努力ができる教師
前年度までの本校の現状	成果	特別活動を校内研究として取り組み始めたことで、児童の中に話合うことに対する抵抗感が減り、生活指導面でも伝え合いながら問題解決する児童が増えてきた。	課題	・４月の学力定着度調査の結果では、５年生では区の正答率を0.04ポイント上回ったものの、D層のばらつきが見られた。４年生ではB層はC層よりも多いものの区の正答率を0.05ポイント下回った。D層のばらつきは多い。これらのことから、D層の底上げをすべく、授業改善や基礎学力の定着に努める必要がある。 ・学級に支援が必要な児童が多くいる場合の授業展開や支援の在り方について解決策を探る。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A～D)		「中間」学校関係者評価(A～D)		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力向上	授業改善の推進	・校内研究を軸とした特別活動の実施 ・分かる授業の推進	・年７回の授業研究の実施 ・１学級年３回以上の授業観察実施											
	ICTを活用した更なる学習の推進	・タブレット端末を活用した学習記録「学びのｱﾙﾊﾞﾑ」の実施 ・学習で「ﾄﾞﾘﾙﾊﾞｰｸ」を実施	・全学年で実施											
	読書科の更なる充実	・PTAの読み聞かせ活動との連携 ・小岩図書館の司書との連携	・全学級で年間１０回以上実施 ・本の紹介や読み聞かせを学期に２回以上実施											
体力向上	運動意欲や基礎体力の向上	・年10回の運動遊びの取組 ・年７回の運動能力向上のための時間の設定	・児童アンケート肯定群90％以上											
共生社会の実現に向けた教育の推進	ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	・教室環境のユニバーサルデザイン化 ・学級担任、巡回指導教員、特別支援専門員との連携	・学校統一の掲示物の全学級化 ・学級担任と巡回指導教員との情報共有											
	エンカレッジルーム（特別支援教室）の理解促進	・エンカレッジルームの保護者への理解啓発と拠点校としての運営の説明	・学校公開においてエンカレッジルーム保護者会を行い運営について説明を実施											
不登校・いじめ対応の充実	自己有用感の醸成や相手を大切にする魅力ある学校づくり	・特別活動や道徳及び他教科と関連させた指導 ・年間を通した挨拶指導	・児童アンケート肯定群８０％以上 ・児童アンケート肯定群70％以上											
	hyper-QUの活用による児童理解の促進	hyper-QUの実施による、感覚だけではなくデータも活用した多角的な児童理解	・学級満足度要支援群の出現10％未満 ・児童アンケート肯定群90％以上											
	教育相談体制の強化	・ふれあい月間の実施 ・５年生への全員面談の実施	・年３回のふれあい月間による確認 ・いじめ防止授業の提案と実施											
地域に開かれた学校の実現	学校ホームページや連絡メールの充実	・ホームページの定期的な更新 ・連絡メールの文書配信	・毎月１回以上の内容の更新 ・配布物の配信化と状況に応じた情報の発信											
	学校公開の実施と充実	・PTAと連携した保護者参加型の学校公開の実施	・全学年、年１回以上保護者参加型の授業公開を行う											
	教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	年間３回の学校評議員との話合いと中間評価、最終評価の公表	保護者アンケート肯定群80％以上											
特色ある教育の展開	「なかよし班活動」の取組による思いやりの心の育成	・月１回以上のなかよし班活動の実施	・児童アンケート肯定群８０％以上											
	「北小田んぼ」「北小さくら」を中心に地域と連携した学習	・教科学習において鶴岡市の方や桜保存会の方と連携し学習を実施	ゲストティーチャーを招聘した学習を実施する											